

私たちの活動や意見を仲間
で共有します。
会費は県と日本平和委員会
の活動も支えます。

土浦平和の会ニュース

2020年2月15日 第336号

発行：土浦平和の会

事務局：土浦市烏山2-530-296

HP：//heiwatutiura.web.fc2.com/

自衛隊F2戦闘機、油圧系の故障で緊急着陸 「緊急事態」発令される

事実の公表をしない防衛省・百里基地 初午祭りで抗議文採択、当日ただちに提出



(河野防衛大臣、佐川百里基地司令宛抗議文概要)

1月30日、三沢基地所属のF2Bが、百里基地を離陸、36分後にそのうちの1機が油圧系統に不具合を確認したため「緊急事態を宣言」し、百里基地に緊急着陸したが、誘導路上を移動しきれずに停止した。事故機は「<の字」の誘導路前を牽引されて移動し、滑走路等に漏れた油などを洗い流したため誘導路は閉鎖され、茨城空港の滑走路が使用された。

不具合は離陸後海上に到達した頃に確認され、油を漏らしながら飛行を続けていたと判断されるにもかかわらず、百里基地側は「着陸時に事故が発生した」と、事実と違う回答をしている。

地域住民から連絡を受けた塩川鉄也国会議員

事務局が、防衛省に問い合わせたところ、事実を認めたもの。しかし、塩川事務所に知らせに來ただけで、「報道や国民に知らせることは考えていない」と発言し、今に至るまで、協定に反して県や現地自治体にさえも知らせる意思がないことが明らかになっている。

「抗議文」は以上の事実経過を解明した上で、情報伝達の徹底を求めると共に、訓練の（一時）中止、専守防衛から逸脱する侵略性の強い米軍との共同訓練への参加をやめるべき、と申し入れている。

東海第2原発再稼働反対に向け 茨城県民投票署名 最終盤、一気に目標突破を

東海第2原発の再稼働の是非を問う県民投票条例の制定を求める「茨城県条例制定請求者署名」はもうすぐ期限をむかえます。

近藤理事からの訴えによれば、全県及び土浦の到達点は必要数（有権者の1/50）の半数ほどです。さらなる奮闘が求められます。

土浦では2/10時点では1,046筆で、必達数2,430筆の43%と厳しい状況です。土浦平和の会としても、成功に向け市民や各種団体と共同して運動を進めています。受任者になる、

署名行動に参加する、カンパするなど、多くの皆さんの協力を呼びかけます。

(裏面に原発関連記事)



東海第2原発

2・11 百里初午まつり 県内外より450人参加

2月11日、今年の初午まつりは朝から快晴の絶好のまつり日和のもとで開催されました。

茨城県平和委員会など7団体で構成される「百里基地反対連絡協議会(百里連協)」が準備を重ねて、毎年開催されています。

豚汁、甘酒、乾燥イモ、漬物や赤飯、「うたごえ」やお馴染み「ヒューマンファーマーズ」がまつりを大いに盛り上げました。



写真は今年のものではありません

地元反対同盟や弁護団から今年88歳になる内藤功弁護士の挨拶と進行し、第2部はリレートークと歌を中心とした交流です。50人以上も参加してくれた東京平和委員会も紹介され、最後に全員で「がんばろう」を歌って終了しました。

原発企業でもデータ改ざん

安倍内閣の公文書廃棄、隠ぺい、改ざん、ねつ造体質が官僚のみならず、いよいよ企業にも広がる

東海第2原発は大丈夫???

原発の新規制基準に基づく審査資料を原電（日本原子力発電株式会社）が黙って書き換えていた。

書き換えられたのは、ボーリング調査で採取した地層サンプルの観察記録。「再稼働実現のため改ざんした」と疑われる。朝日新聞2/15付社説は次のように述べている。

「原電は、4基のうち2基の廃炉が決まり、残

る敦賀2号機と東海第2原発の再稼働に社運がかかる。ぜひとも運転を認めてもらおうと、活断層説が弱まる



敦賀原発2号機

ようにデータを書き換えたのではないか。」

今回判明したのは敦賀原発2号機（福井県）をめぐる問題とはいえ、ことは国民の命に関わる原発の問題だけに、その影響は計り知れない。

安倍内閣の公文書廃棄、隠ぺい、改ざん、ねつ造が官僚のみならず、いよいよ企業にも伝染したということか。

アフガンで銃弾に倒れた中村哲さんに対する日本政府の態度が、異常なほど冷たいことに心を痛めた人が多かったのではないか。現地では中村氏を讃えて国葬を開き、ガニー大統領自らが棺を担いで運ぶという場面が日本でも報じられた。他の国からも相次いで深い弔意が示されている。かろうじて、ここ数日、NHK/Eテレが60分の中村氏へのインタビュー番組「心の時代・長き戦いの地で」を繰り返し報じた（再放送）のは有意義であった。

氏の死後にあわてて読んだ著書「天、共に在り」の中に、政府の冷たさを解明する記述を発見したので、簡単に紹介したい。

時はテロ特措法成立前の2001年、当時「難民キャンプで救援活動をするNGOなどを守るために、自衛隊を派遣する」という議論が行われているのに対し、衆議院特別委員会で話すことを求められた中村氏は抽象的な議論は一切せず、アフガンの現状、特に大干ばつによる人びとの惨状とアフガン難民の実態を述べ、自衛隊派遣よりも飢餓救援を訴えたのである。氏は「・・・こうして、不確かな情報に基づいて、軍隊が日本から送られるとなれば、住民は軍服を

着た集団を見て異様に感ずるであらう」、「よって自衛隊派遣は有害無益、飢餓状態の解消こそが最大の問題であります」と明言した。

著書では、「この発言で議場騒然となった。私の真向かいに座っていた議員が、野次を飛ばし、嘲笑や罵声をあび



せた。司会役の代議士が、発言の取り消しを要求した。あたかも自衛隊派遣が自明の方針で、参考人招致はただの儀式であるかのようなのだ。」「続けて中村氏は「対日感情は一挙に悪化するだろう。これは過去先輩たちが血を流して得た（平和主義という）教訓を壊（こぼ）つものである」、「最後に、党派を問わず、一人の父親、母親としての皆さんに訴える。繰り返すが、大干ばつと飢餓救援対策こそが緊急課題である」と締めくくった。

「世界からの賞賛」と「日本政府の冷やかな態度」という対照の謎が、一気に腑に落ちるのである。

読む価値大、得るところ大の一冊。

異色！日本政府の態度

中村哲医師の著書「天、共に在り」、読む価値大ですよ

大滝 誠（土浦平和の会理事）

【平和の会へのおさそいを。「平和新聞」購読も広げましょう】

- 幅広い年代からの加入を勧めましょう。ご家族・ご近所・友人・知人などにお声かけを
- 会費：月額500円、「平和新聞」（毎月5、15、25日発行）：月額520円（送料込）

